

新しい国民統合の企みを打砕く！

「天皇も元号もいらん」 —市民参加で1000人がデモ

大阪



「70年安保の頃の雰囲気」が少し出てきた」

大阪では、天皇の死に伴う民主主義の蹂躪やイデオロギー攻撃に、民衆の側からの抗議と反撃を準備してきた「反天皇制のうねり」が関西連帯会議を中心に、ささく様々取り組みが開始された。

死の当日七日には、三百人を越える人々が、大阪・中之島に集まり、全てのマスコミをあげて始

また天皇賛美、服喪の強制に抗議するとともに、御堂筋に出て、鐘や太鼓を打ちならし、「天皇はもういらん」「元号もゴメン」と、通行する市民に訴え、ビラを配布した。これに対して、警察はバス十台もの機動隊を出動させ、宣伝を妨害するといふ過剰警備。

翌八日には、釜ヶ崎三の角公園で集会、その後難

天皇の死に伴い、いよいよマスコミを総動員した天皇賛美統合のキャンペーンが始まった。予定されていたことは言え、テレビ、ラジオ、新聞が、全て天皇一色に塗り潰されること、息苦しさ……。昨年の「自衛隊」以降の攻勢は、今後一年以上にわたって続き、民主主義が奪われていく。東京では、街宣に出ようとした党派の隊列に警察がおそいかり、二十数人を逮捕。大阪でも集会やデモに大量の機動隊が出動した。警察筋の情報によれば、「大喪」を前に広範な事前弾圧が準備されている。しかし、テレビ局に抗議が殺到し、各地で抗議行動も始まっている。地域から、職場から、

権利と思想・表現の自由を守り、取り返す闘いを！

また天皇賛美、服喪の強制に抗議するとともに、御堂筋に出て、鐘や太鼓を打ちならし、「天皇はもういらん」「元号もゴメン」と、通行する市民に訴え、ビラを配布した。これに対して、警察はバス十台もの機動隊を出動させ、宣伝を妨害するといふ過剰警備。

翌八日には、釜ヶ崎三の角公園で集会、その後難

天皇の死に伴い、いよいよマスコミを総動員した天皇賛美統合のキャンペーンが始まった。予定されていたことは言え、テレビ、ラジオ、新聞が、全て天皇一色に塗り潰されること、息苦しさ……。昨年の「自衛隊」以降の攻勢は、今後一年以上にわたって続き、民主主義が奪われていく。東京では、街宣に出ようとした党派の隊列に警察がおそいかり、二十数人を逮捕。大阪でも集会やデモに大量の機動隊が出動した。警察筋の情報によれば、「大喪」を前に広範な事前弾圧が準備されている。しかし、テレビ局に抗議が殺到し、各地で抗議行動も始まっている。地域から、職場から、

した人々など、子供も含めて数百人が参加。その後、大阪ミナミの繁華街にくりだしたデモは、天皇制の押しつけに群衆した市民も加わって千人を超えるデモとなり、各所でフランスデモを展開、「規模は小さいが七〇年前後の雰囲気が出て

都「今こそはつきり主張を」
緊急集会に溢れる参加者

天皇ヒロヒトが死んだ一月七日夜、京都府立部落解放センターで「戦犯天皇を糾弾し続けるXデ

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

系の家系に生まれたからな

「今までの経験が、正味問われる時代に入った」

まず、それぞれの職場や運動の現状と、その中で今何を中心にするか、というのを、ついでに報告していただきたいと思っています。

「市民ふれあいセンター」を作った



未組織労働者の組織化に取り組みようということ、で、十枚紙を作った、掛け声はよかったんだが、まいたのは一部の真面目な組合だけ。何のために金をかけてやったのか、と思う程で、相談も余りなかった。なんとかなければという人々もいるが、全体的には、連合にむけて、ズルズルいっているという感じだ。

「M」地域から報告すると、地協では今、来年度の体制に向けてどういすんねんという話になっている。が、どうもすつきりしない。色々問題提起しても、大きなところが全然動かない。

産業構造転換と労働統一、軍拡、農産物輸入自由化、消費税導入、天皇の死にむけたイデオロギー攻勢等々……、昨年一年、戦後支配の全面的な再編が相次ぎ、一方では、リクルートに象徴される、金満日本の体制的腐敗もまた暴露された。明らかに時代は大きな転換期にさしかかっている。その中で、反原発運動の盛り上がりが見られるように、新たな闘いの動きも始まっているものの、革新、左翼を含めた主体の解体や混乱のために、これを更に大きなものにするのができないでいる、というののもまた現実である。天皇の死という象徴的な出来事が始まった一九八九年を、どう闘うのか、様々な領域で闘いを続けてきた人々に集まってもらい、特に転換期にあたり、運動と状況の両方から我々に問われている課題は何か、それにどうこたえるのか、を中心に話し合ってもらった。なお参加者は日さん（五八才）以外はいわゆる七〇年代代。

(文責・編集部)

様々な運動を結び鍵を見出した



「M」僕自身、労働組合の役員で、有機農業運動や消費者組織にも関わりを持っていて、自分が何をやっているかというのが判らない面があるが、いずれも、転換点にきているというのには確かだと思ふ。

ある学習会で、武藤一羊さんが、「どこからでも攻められる状況になってきている」という話をしていた。いろんな運動の戦線が解体し、どこから手を付けていいかわからない。そのことが逆にどこからでも攻められるという表現になるんだらうが、そういう現状の中でそれらを結び鍵になるものを何とか見出したいと思っている。

労働そのものを回復したい

有機農業運動に取り組んだきっかけは、労働組合というけれど、ホンマに労働とは何か、そこでもういっぺんやり直さなにかん、ということだった

政治への求め



徹底的にやろうというのと、いろんな人と呼びかけてみようということを中心にして取り組み、最終的にはほぼこちらの要求は通った。

小さいけれど一つづつ積み上げ、豊中を中心に一点突破して、それを全体に波及させるような運動をやっている。いかんかと思っている。

れた近代農法、工業的農業に代わって、新しい質を生み出せる芽があり、都市の住民がそこへ拠点をみつけ、農民と手を組んで新しい運動をやろう、そのことが高度経済成長に対する批判的な運動になりえたという時期がある。そこから反原発とか様々な運動に合流していきけるような質も持っていた。その経験を、もう一度、きちんと労働運動と

向かい合おうという作業を、地区労働運動を通してやろうとしてきた。地区労働運動のものは、受け皿となるようなものはない。だけれど例えば、食べ物問題や、自然に触れる場所をどう作っていくか、そういう問題を出すと、反響が帰ってくるという。小波がたつというのがある。地区労働は、やはり、自分達の拠所を、地域の労働運動を求めていて、その一つの手掛りを出そうという運動がパートユニオンだった。

経済の眼

年末から新年にかけてマスコミでの経済のテーマは、もっぱら円・ドル為替相場がどう動くかだった。しかし世界経済システムは日米関係・二つの経済超大国を中心に回っているわけではない。世界経済システムがかかえる主要な矛盾は依然として、中心部対周縁部(第三世界)の対立にある。

一昨年一〇月におこ

第三世界への収奪激化で中心部の危機回避

ったブラックマンデーで、金融危機から世界恐慌への道を回避できなかった第一の理由は、中心部が周縁部への収奪を一層強めたからだ。一層強めたからだ。一層強めたからだ。

た。NIESがもてはやされているが、韓国・台湾をはじめこれらどの国でも労働運動が激化しており、疑似的文民政権(本質は軍事政権)が危機にさらされているのは、その

う気がしている。



長でやった失敗を繰り返すか、それをさせないかというところでの対立点が非常に鮮明になってくる。そのときに、彼等は有機農業とか農民と消費者の提携についてものすごく関心を示す。韓国の農村からきた人もそうだった。高度成長の始まり、或いはもう渦中に入りつつある国の人達からそういうふうに見える

アジアとの交流

もう一つはアジアとの交流をやったりやらないかんと思う。

これからアジアは、高度経済成長の時代を迎え工業化社会が全面化するという時代に入る。そこで起きてくる矛盾はおそらく、我々が高度経済成



「連合」拡大中央委員会に出席した矢野公明・土井社会党委員長

る運動というのは、ひょっとしたらかなり値打ちのあることじゃないか。そこに依拠して労働運動がそういう問題意識をどれただけ取り込めるかというのが大事だということか、僕自身がタイに行ってみて話を通じるといのがうれしかった。

(三面へつづく)



反原発運動は各地で大きな盛り上りを見せた

徹底して個別の側で闘い、 個別にこだわる



「〇」個別と全体の関わりということでは、個別の問題を全体へもっていき、止めた方がいいのではないかと。それはこの十年間ずっと思ってきた。

何故かといえば、個別の課題が政治領域にあげられると、全部敗北していく。経験的にそうだ。もう一つは個別の側で

例えば、賃上げは、労働者の基本的な問題からすれば、明日なんぼほしいというだけの話であり、あと何も意味がない。その絶対必要だから取るんだということ、ストライキもできるし闘いも成立する。社会的にこれだけ必要なことからいうことではない。

だから、本当に自分にとって不可避なところだけ闘えばいい。そういう闘いが、一つの組織なり中央なり一つの政治になった時に、全部相対化され一般化されてしまい、個人の闘いへの思い入れがどこかへ霧散してしまふところがある。そう、うなづかるときに闘いは闘いにならないと思う。まず、徹底して個別の側で闘う。そうした時に何ができるのか、何ができないのか、そこを問題にしない、政治や中央の問題は語れないのではないかと気がしている。

東京はそうではなく、共産党対社会党右派という構造になっている。関東はほとんどそう。だから、労働統一の話ができた時に、東京の中央本部なんかは、中小零細企業なんかじゃなく、金にもならない、逆に金をつきまさないかん。こんなかなわんから労働統一だということになる。そうすると、中間派というか良心派がないために、共産党ときれいに分かれてしまう。

中央と、大企業が進出していて組合がある九州、東北、北海道方面で労働統一の流れができ、全部敗北していくという

いったん流れができると弱いもので、大阪の三分の一の右派が全部流れを変えてしまう。こういう形で雪だるまになっていく。

結局何が問題かというと、労働組合の組織を作った時に、例えば委員長がいて書記長がいて活動家がいる、一般組合員がいるという構成のされかたは、全く資本と同じだし国家とも同じで、どんな組織も、そうであれば全部敗北していくという

ことだ。その組織が、昔でいう党・大衆の組織じゃないに、それをひっくりかえすような作り方、構成の仕方をつかまえない限り、全部大きいところから負けていく。

ぼくらは、不可避なところから言えば、いくらか小さくても組織の構成の仕方をひっくり返せるような組織、というかなんとかいうか、それを今作らざるを得ない。そこで紆余曲折をやっている。

この組織が、昔でいう党・大衆の組織じゃないに、それをひっくりかえすような作り方、構成の仕方をつかまえない限り、全部大きいところから負けていく。

新春座談会

個別課題か 橋わたし

（座談会参加者）

- Iさん―地域合同労働役員、消費者運動にも従事。
- Mさん―農協勤務、有機農業運動を主に労働運動や消費者運動にも参加。
- Oさん―全国金属労働組合、組合は同盟傘下。
- Kさん―大手自動車メーカーの下請会社勤務、組合は同盟傘下。
- Nさん―消費者団体専従。
- Tさん―人民新聞編集部。
- Hさん―人民新聞編集部。
- 司会・編集部

通して人間関係が前とどう変わったのか、給料が上がったとか要求を勝ち取った時に、お互いの人間関係がどう変わったのか、総括されない限りは意味がないと思った。

最近で言えば、ラインを、出荷のところで楽に仕事が出来ないように変えていく―今までは一番頭のところにラインを止めるストップボタンが一個だけあって、課長が管理していたのを、出荷の側にボタンをつけて、徐々に増やし、各人がラインをストップできる状態を作っていく―とか、労災職業病の問題をやってきた。

どこを基盤にやったのかという、課でつながっている何人かの人々の力だった。現在は、仕事の信頼関係で結んでいる部分が、同盟の組合の中央委員の三分の一位を占めている。最初は、中央委員というのは職場の中の鼻つまみ者をみんなが対象だった。僕らとしては、今形ある組織というのは組合しかないわけだから、難儀な仕事だけどう変わったかがよくわかる。勝つて、主体がどう変わったかがよくわかる。ぼくはない、そういう弱さがあった。その運動を

一致してしまう面があるが、我々としてはそこを現実的にどう突破していくのか、どういう組織を作っていくのかというのを今、模索している。

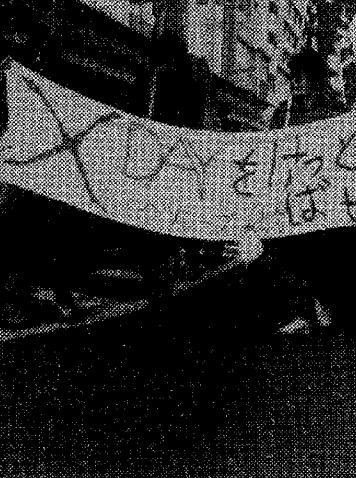
職場を自分達の手に とり返す



（K）自動車の下請の職場に入って六年位だが、最初に出会った問題は無制限の残業の問題で、一日四〜五時間。或いは、ラインが完全にバカにさ

れていて、中途採用の人や下請の人がドライバーを持って職制を追いかけたり、新人が入ってきて、八時に出勤して一〇時の休みに戻らざるを得ない。そこで紆余曲折をやっている。

り荷物をまとめ田舎へ帰るとか、そういうのがしよっちゅうあった。不可避なところであるという話があったが、一番不可避だったのは、やはりまず人間としてやらないかん最低限のこと、残業をこちらが規制し帰りたい時に帰る、四時に帰れば「くろうさん」



昨年11月3日に吹田で行われた反天皇制のデモ

（N）消費者運動にずっと関わってきて、その前も含めて勇ましいことを言ってきた自分自身が、何か社会民主主義者やなあみないなことにいきあたって、その限界が運動とダブって見えることがある。

（N）消費者運動にずっと関わってきて、その前も含めて勇ましいことを言ってきた自分自身が、何か社会民主主義者やなあみないなことにいきあたって、その限界が運動とダブって見えることがある。

（四面へつづく）

自分と運動の 限界が ダブって 見える



チェルノブイリ後、主婦を中心に、これはやばいというのが出てきて、理屈とかそんなんじやなくて、ごっつい力になる。しかしそれで勝つかというやっぱ勝てない。政治的な視点は、ほんまに考えると要るし、かといつてそうなりきれない弱さもある。その主体の弱さというのどこからきているのか、それを強めるにはどうしたらいいのか、何のためにそんなことをするのかも合わせ

（四面へつづく）

丸岡修 獄中報告

遊牧生活を営むサミ（ラ
ツプ）の人達はチュエルノ
丘1—3—7、自主講席
内、803—815—16

遊牧生活を営むサミ（ラ
ップ）の人達はチエルノ
ブイリ原発事故の直撃を
48

▼ドキュメンタリー映画
「脅威」貸出します
スカンジナビア半島で
遊牧生活を営むサミ（ラ
ップ）の人達はチュエルノ
ブイリ原発事故の直撃を
を描く。1987年スウェー
デン制作、16ミ、72
分、カラー／1回3万円
／申込、東京都文京区向
丘1-3-7、自主講演所
内、☎03-815-1166
48

本の15年戦争
いいだもも=訳
千各200

これで昭和もおしまいだ
いいだもも 著

四六判並製・422頁
定価1800円 千250

「戦争」「平和」「昭和の
幕息のファイナール」
「私たちの時代、昭和
カッし、ホスト昭和
をラジカルにさし示
す衝撃の『書』」

昭和の終焉に
立ち合いつつある
現代人必読の書!!

の道
を北
事裁判

東京4-42905